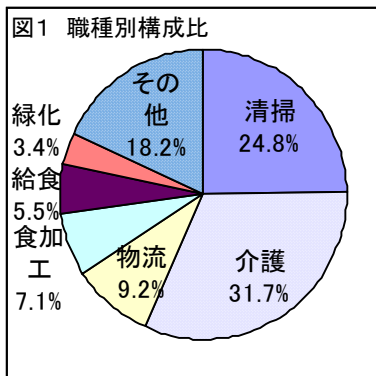


## II. 組合員の構成、仕事・生活環境の概要

それぞれの詳しい調査結果は、52ページ以降の集計表を参考にしてください。

### 1. 就労者の構成

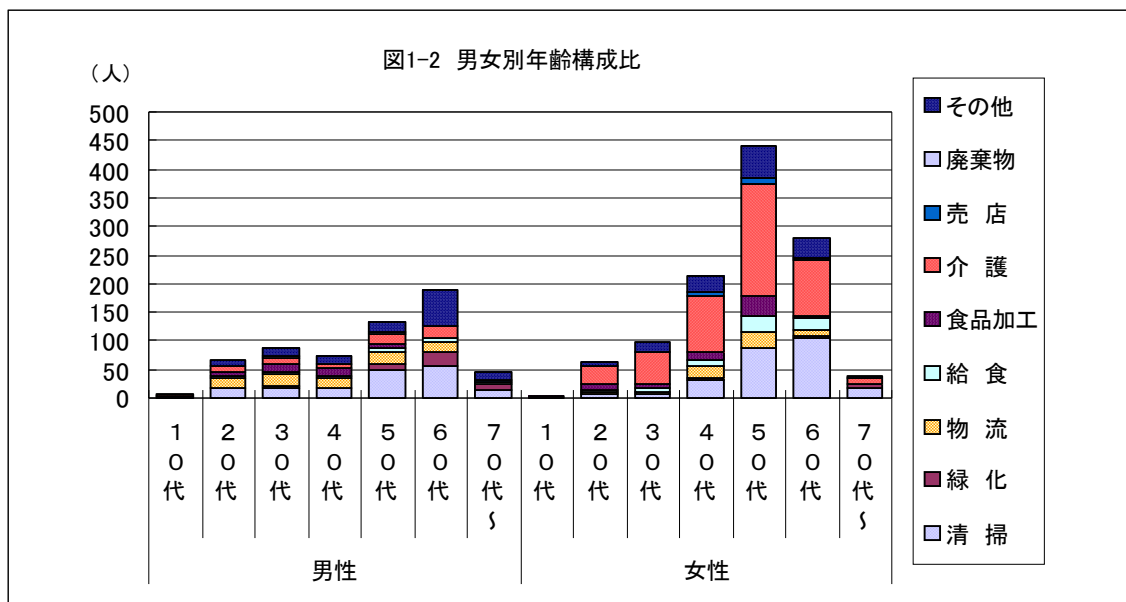


【職種】回答者の職種別就労者数は多い順から、①福祉・介護31.7%（前回比18.4ポイント↑）、②ビルメン・清掃25.0%（同1.9ポイント↑）、③物流9.2%（同14.3ポイント↓）、④食品加工7.1%（前回比なし）、⑤給食5.5%（前回比なし）、⑥公園・緑化3.4%（前回比1.7ポイント↓）、⑦販売・売店1.5%（前回比なし）、⑧廃棄物関連0.5%（前回比なし）、⑨その他12%（同0.3ポイント↓）、⑩無回答4.2%（同1.6ポイント↑）である（表1-1）。給食と食品加工は、前回「食関連」として一緒に統計を出したために前回比はない。ただ、食関連全体では4ポイントの減少となっている。

全体的には福祉・介護は大幅に増加、物流が減った。「その他」の職種には事務員やエリアマネージャー等が含まれると考えられる。

### 【男女と年齢】

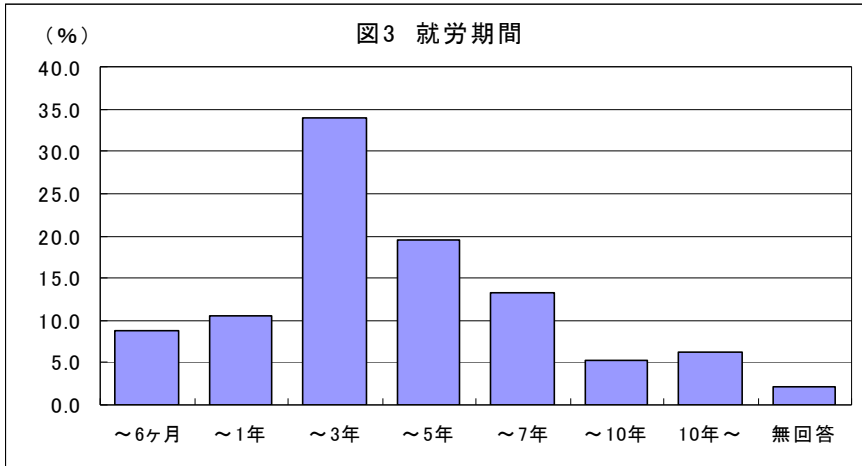
就労者男女比は女64.7%（前回比3.3ポイント↑）、男34.2%（前回比3.7ポイント↓）で、前回比女性の割合が増えた。男が5割を超えたのは、廃棄物（87.5%）、公園・緑化（75.0%）、物流（60.5%）であった（表1-2）。



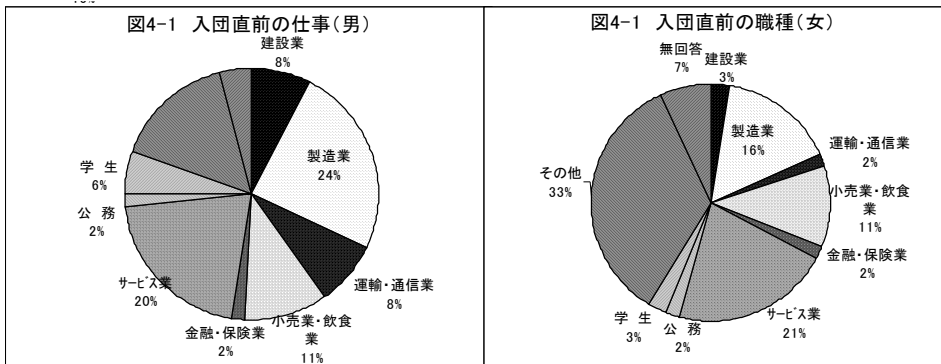
## 2. 就労期間と入団直前の仕事

### 【就労期間】

3年未満の割合が非常に高く、6ヶ月未満～3年未満の割合は10代(88.9%)、20代(73.7%)、30代(60.1%)、40代(51.6%)、50代(56.1%)、60代(49.8%)、70代(18%)であった(表2)。中高年世代でも3年未満の割合が高いことがわかる。70代では10年以上働いている人が25.8%もいる。



### 【入団前就労形態】



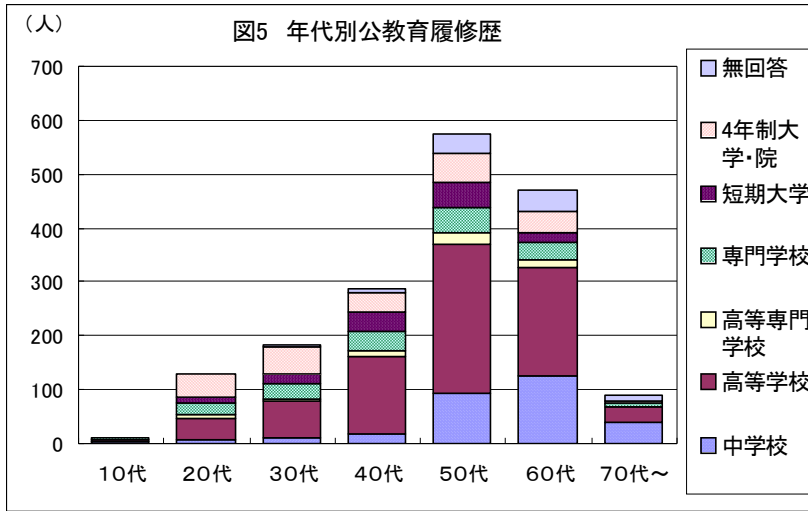
入団直前の仕事は、サービス業(21.0%)、製造業(18.7%)、小売業・飲食業(10.8%)、建設(4.3%)、運輸・通信(3.9%)、学生(3.6%)、金融・保険(1.9%)、公務(1.8%)、電気ガス水道(0.9%)、不動産(0.7%)、その他(25.1%)、NA(6.3%)であった(表3)。

入団直前の就労契約形態を見ると、正規社員(38.9%)、パート・アルバイト(29.1%)、自営・自由業(6.3%)、契約・登録社員(4.1%)、学生(3.8%)、派遣労働者(1.8%)、その他(6.7%)、無回答(9.4%)であった(表4)。女性は30代以降になると前職がパート・アルバイトの割合が高くなるが、男性は20代、30代、40代で高い傾向にある。ちなみに、前職が派遣とパート・アルバイトの割合は、20代男性が26.7%、30代男性が22%、40代男性が21.6%であった。「その他」には無職・主婦層が含まれると考えられる。

入団直前の就労契約形態を見ると、正規社員(38.9%)、パート・アルバイト(29.1%)、自営・自由業(6.3%)、契約・登録社員(4.1%)、学生(3.8%)、派遣労働者(1.8%)、その他(6.7%)、無回答(9.4%)であった(表4)。女性は30代以降になると前職がパート・アルバイトの割合が高くなるが、男性は20代、30代、40代で高い傾向にある。ちなみに、前職が派遣とパート・アルバイトの割合は、20代男性が26.7%、30代男性が22%、40代男性が21.6%であった。「その他」には無職・主婦層が含まれると考えられる。

## 3. 公教育履修歴、獲得資格

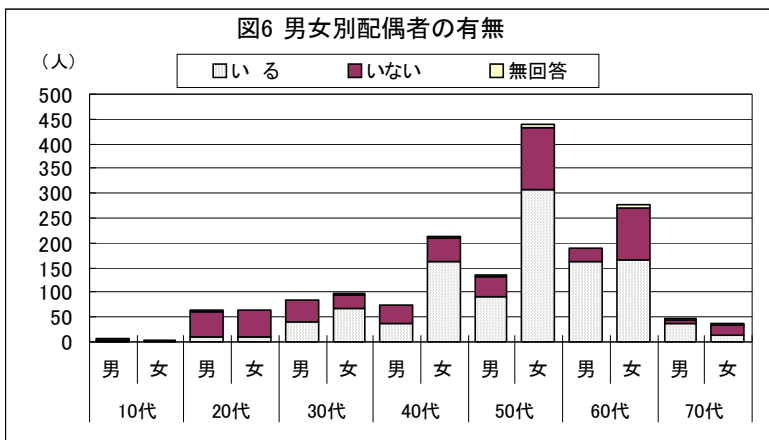
最も多い回答は自動車運転免許証で634人(約36%)、次いでホームヘルパーの540人



(約30%)である。他に20人以上が回答した資格類は、簿記(100人)、調理師(75人)、珠算(73人)、保育士・幼稚園教諭・小学校教員免許等(55人)、ガイドヘルパー(54人)、フォークリフト(48人)、介護福祉士(43人)、危険物取扱・高圧ガス関連取扱(40人)、中学・高校教員免許(38人)、精神障害ホームヘルパー(31人)、

社会福祉主事(27人)、看護師(26人)、ワープロ・パソコンソフト技能(26人)、溶接関連(23人)、電気工事・設備資格(22人)、栄養士(21人)、ボイラー関連資格(21人) 訪問介護(21人)、介護支援相談員(20人)、玉掛(20人)

最終学歴は、前回と比べて中学卒業が5.5ポイント減って9.8%、大学卒業が4.4ポイント増えて6.5%となった(表5)



#### 4. 結婚、居住世帯、住居

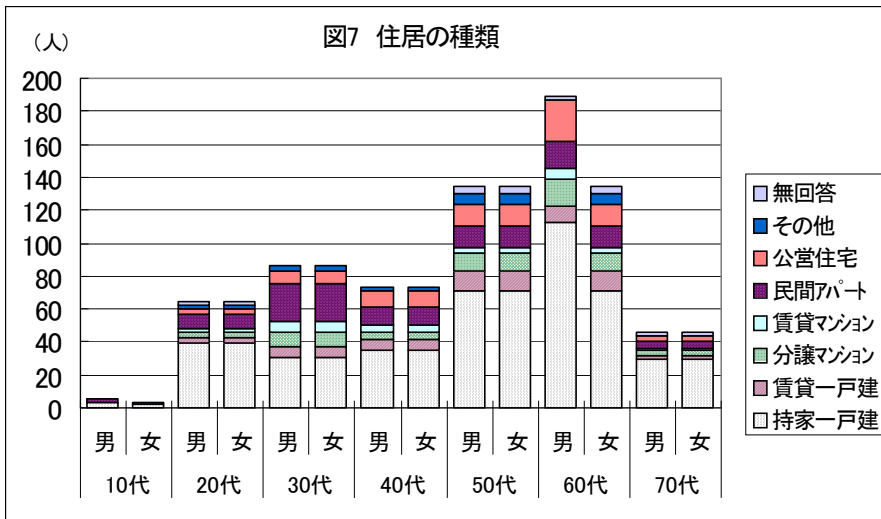
配偶者有無についての無回答が全体で3.1%(女2.6%、男3.0%)であった。配偶者有だけ比べれば、30代(女70.1%、男45.3%)(前回女81.6%、男19.3%)、40代(女75.2%、男50.7%)(前回女86.8%、男54.3%)、50代(女70.2%、男67.2%)

(前回女86.0%、男67.7%)となっている(表6)。男性は30代・40代でも配偶者がいない人が半数近いが、30代男性は前回より配偶者有と答えた人の割合がだいぶ増えた。

持家率については、男性の30代・40代を除くと、どの世代も50%を超える(表7)。10代・20代で持家の人は、親の家に住んでいる人が含まれるとも考えられる。

#### 5. 住居と職場、通勤時間

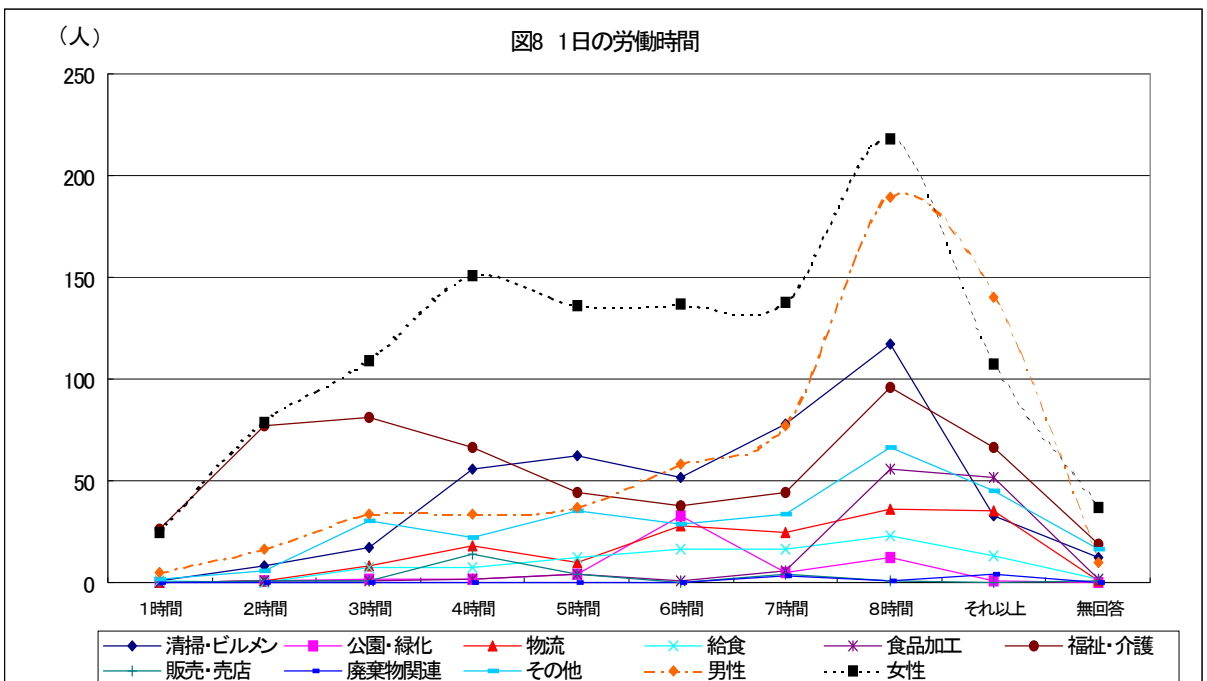
通勤時間は約71.5%(女性の74.7%、男性の67.2%)が30分以内であった(前回比2.8



ポイント↓)。1時間以内となると9割にのぼる(表9)。職種別通勤時間が30分以内の人は、食品加工(88.8%)、物流(84.0%)、販売・売店(80.8%)、福祉・介護(73.1%)において高かった。

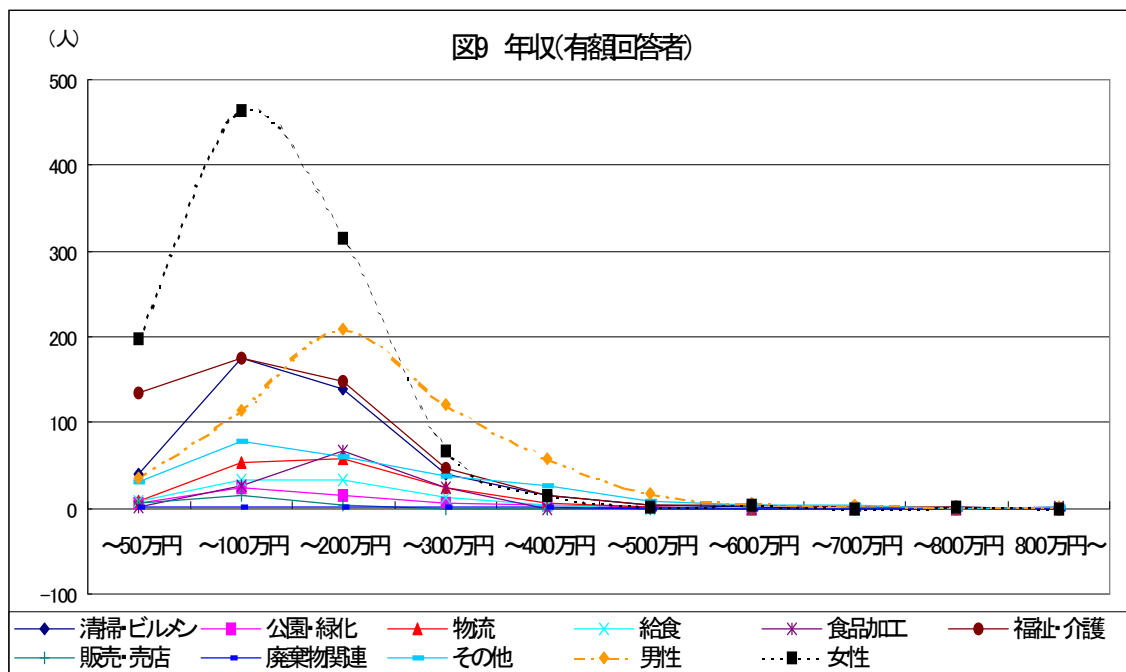
## 6. 一日当たりの平均労働時間

職種別では、清掃・ビルメンは5時間と8時間に頂点があり、公園・緑化が6時間が中心、物流、給食は6,7,8時間、食品加工は8時間、福祉・介護においては3時間と8時間に頂点、販売・売店は4時間、廃棄物関連では8時間以上に頂点がある。男女別では、男性は8時間に31.5%の人が集中しているが、女性は4時間13.3%、8時間19.2%を両頂に分布している。介護福祉は短時間と長時間で二極化している(表10)



## 7. 年収について

総合を見ると、本人年収では「50万円以上100万円以内」をピークに漸減する。女性は100万円以内に頂点があり、男性は200万円以内に頂点がある。家庭を持つ男性の年代（30代以上）でも300万円以内が多い（表11）。しかし持家率が多いことを考えると、その分家賃がかからない人が多いのではないと思われる。



### III. 事業団に加入した理由、そして今の仕事に対する意識

#### 1. 事業団に加入した理由と働き続けている理由

「加入理由」と「働き続けている理由」についての回答はほぼ同じパターンを示した。両者とも1位が「生計の維持57.9%（前回比7.0ポイント↑）」、2位が「社会に役立つ27%」、3位が「働くことが好き25.5%（前回比5.1ポイント↑）」となっている（表12）。働き続けていると、事業団に加入したときより「労協の理念に共感」と「社会に役立つ」が微増する（「理念に共感」が1.4ポイント↑、「社会に役立つ」が2.6ポイント↑）。また、前回に比べて「働き続けている理由」でアップしたのは「社会に役立つ」（14.4ポイント↑の27%）、「働くことが好き」（3.1ポイント↑の25.5%）、「労協の理念」（3.1ポイント↑の9.2%）であった。

#### 2. 仕事をしていてよかったと思うこと

1番高かった項目は「新たな仲間ができたこと（47.0%、前回比0.8ポイント↓）」、2番目には「新たな知識の習得（31.4%、前回比10.3ポイント↑）」、3番目は「健康・体力増進（26.7%、前回比3.6ポイント↓）」であった（表14）。